

The Best Choice of the Measures for the Pandemic

ーパンデミック対策のベストチョイスー

By T. TONO-OKA, MD

A) Aborted-Infection Immunity (感染中断免疫)

感染後早期に抗インフルエンザ薬を服用させ、軽症で治癒させると共に免疫をつける。市民が発熱数時間以内にタミフル等の抗インフルエンザ薬を服用することで達成。

服用開始時間は、発熱を呈してから12～24時間以内。遅くとも36時間以内。

保健所が配布、または薬局販売(OTC)。*薬事法改正が必要。

参考：1) オーストラリアのレーバー博士理論 2008/6/11

<http://homepage3.nifty.com/sank/jyouhou/BIRDFLU/2008/Prophylactic%20Use%20of%20Tamiflu%20Bad%20Idea.pdf>

2) 外岡立人理論 岩波書店「世界」：真の危機が伝えられない日本の「新型インフルエンザ」状況、2007年3月号

*抗インフルエンザ薬による精神症状発現の可能性がある十代の若い成人層には(young adult)、プレパンデミック・ワクチン接種で代用も可。

B) プレパンデミック・ワクチン投与

パンデミックウイルスが国内への拡大が予想されたときは、対策に直接あたる関係者、および希望する市民へプレパンデミック・ワクチンの接種

なお季節性インフルエンザ・ワクチンの前投与がなされていたならば、ブースター効果が期待されるから、日常から季節性インフルエンザに対するワクチン接種を習慣づけしておくことが重要。

C) 備蓄すべきもの

- ・抗インフルエンザ薬(タミフル、リレンザ)の国民分備蓄：1億3000万人分
保健所または市町村で備蓄、そして必要時に住民へ配布；または薬局での販売(OTC)
企業における備蓄(産業医が管理)
必要時は産業医が職員等に配布
企業と行政側からの二重のサポートで、取り残される人が出ることを避ける
- ・プレパンデミック・ワクチンの国民分備蓄：1億3000万人

基本方針

国内での患者が発生しだした段階

- ・プレパンデミック・ワクチンの早期接種：医療関係者、ウイルス暴露危険性高い職種、及び若い世代
- ・一般者：感染中断免疫

感染中断免疫の方が確実性が高いと考えられるが、そのためには抗インフルエンザ薬の適切な市民への配布体制の確立が急務。プレパンデミック・ワクチンの投与を受けた関係者および市民が発熱し、感染が疑われる場合も、早期に抗インフルエンザ薬を服用し、感染中断免疫を獲得させる。

・パンデミックワクチン——パンデミック発生後2ヶ月程度で最初の製剤が配布可能となる。医療関係者、危機管理対策関係者、緊急業務担当者、若年成人、成人、小児他の希望者に接種開始